

緩和策と適応策について

1. 「緩和策」、「適応策」とは

地球温暖化に対する取組として、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、現在及び将来予測される影響に対処する「適応策」があります。

「緩和策」とは、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策による温室効果ガスの排出削減、森林等の吸収源の増加などによって、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化を防止するための取組をいいますが、一方で「適応策」は、既に現れている、あるいは、中長期的に避けられない地球温暖化の影響に対して、自然や人間社会の在り方を調整し、被害を最小限に食い止めるための取組をいいます。



出典：気候変動適応情報プラットフォームHP

2. 緩和策・適応策の例

(1) 緩和策

- ・省エネルギー対策
- ・再生可能エネルギーの導入加速化
- ・環境学習・環境啓発 等

(2) 適応策

- ・熱中症予防
- ・豪雨災害対策・雨水利用
- ・緑化推進

3. 環境保全課におけるそれぞれの具体的施策

(1) 緩和策の具体例

- 地球温暖化防止設備導入助成制度

詳細は別紙パンフレット参照。地球温暖化防止に寄与する住宅改修（エネファームや建築物断熱改修、遮熱塗装など）に助成金を交付。

- 再生エネルギーの導入促進

(例)「みんなでいっしょに自然の電気」キャンペーン

別紙参照。東京都のキャンペーンと連携。電気の共同購入をすることで、電気代がお得になるだけでなく、クリーンエネルギーを利用できるというもの。

- 各種啓発事業

環境フェア、夏休みすみだ環境プログラム（夏休みの小中学生とその保護者向け環境啓発講座）、エコライフ講座（一般区民向け環境啓発講座）、森林整備体験等を実施

(2) 適応策の具体例

- クールシェア

夏の暑い日に一人一台のエアコン使用をやめ、家族で1つの部屋で過ごしたり、図書館や商業施設で涼む、あるいは、自然が多い涼しいところに行くことで、涼しい場所をみんなでシェアするという考え方。

本区ではオリンピック期間中の両国国技館周辺の来街者・区民に向けてクールスポットを紹介・クールシェアを周知。



- 雨水利用の促進

別紙参照。都市型水害防止のため、都市における「ミニダム」としての雨水貯留槽の普及を推進。雨水タンクを設置する区民・事業者に対し助成金を交付。

- 緑化の推進

- ◆ 「緑のへい」等設置補助金等交付制度（別紙参照）、緑化講習会等で民間緑化を支援。
- ◆ 建築物所有者に対する屋上緑化・壁面緑化の際の補助金の支給及び公共施設や緑化講習会参加者への苗の配布による緑のカーテンの普及によるまちのみどりの増加を促進。
- ◆ 緑と花のサポーターと協働し、緑と花の学習園を整備し、緑化啓発の拠点としている。